

# 青果物の流通費用に関する調査研究 Ⅲ

松 田 延 一

## A Survey of Research Studies concerning the Cost of Distribution and Sale of Vegetables and Fruits Ⅲ

By

Nobukazu MATSUDA

### は し が き

この報告は、昭和46年の夏野菜、果物の名古屋市における流通費用の調査結果の概要である。この調査研究の目的は、前年度の調査すなわち第1報に述べた調査結果との比較、追認とその間に存在する問題を明らかにしようとするものである。この趣旨から第1報において取扱ったものと同じ品目につき、ほぼ同じ調査時期に調査したものである<sup>1)</sup>。なお秋野菜、果物の調査結果である第Ⅱ報(本号所収)<sup>2)</sup>とも関連のあることはいうまでもない。

### 調査品目、調査時期、調査方法

調査品目は、第1報と同じく、野菜では、なす、きゅうり、たまねぎ、ばれいしょ、とまとの5種類、果物は、すいか、もものほか、今回はプリンス・メロンを付け加えて3種類、合計8種類をとりあげた。

調査期日は、7月下旬から8月上旬(昭和46年)にかけての期間である。すなわち7月24日、28日、8月2日の3日間、名古屋市中心卸売市場の本場に出廻った青果物の出荷者に対して、前回と同様の調査票を送り、荷造り、包装費、運賃、組合手数料、検査料、卸売価格、卸売人手数料、生産者手取金などについての回答を求めた。これによって、産地から、市場までの現実的流通費用の計算をした。

次に小売価格の調査は市内の小売店を7月24日から8月4日までの期間にわたり、同一店舗を3回ずつ調査した。これによって得た価格を平均として、この期間における小売価格とみなしたことは、前回と同様である。そしてその調査対象店にはスーパー・マーケット、スーパー・ストア、デパート、公設小売市場、私設小売市場、専門店、八百屋などを含ましめた。その詳細は表1に示す如くである。(表1参照)。

次に流通課程における目減り、腐敗、損耗などのいわゆる廃棄率はもちろん、前年と同じ計数を用いたが<sup>3)</sup>、プリンス・メロンはすいかと同じ率とみなした。

### 調 査 結 果 の 概 要

まず産地から市場までの諸費用を知るために、出荷者に対して行ったアンケートの発信数および回答数を示すと、表2の如くである。(表2参照)。

表1 調査小売店の性格

性 格	店 数	地 域 (区 名)
スーパー・ストア	2	中, 千種
スーパー・マーケット	12	千種, 昭和, 南, 瑞穂
百貨店	4	中村, 中
公設小売市場	3	港, 熱田
私設小売市場	17	中村, 昭和, 千種, 南, 瑞穂
専門店	10	中村, 熱田, 昭和, 千種, 瑞穂
八百屋	24	中村, 熱田, 昭和, 南, 瑞穂
合 計	72	

備考 調査店数および地域は前年よりもその数をふやした。

表2 出荷者に対するアンケートの発信数および回答数

品 名	発信数	回答数	品 名	発信数	回答数
な す	30	18	す い か	44	11
き ゆ う り	27	12	も も	14	8
た ま ね ぎ	15	9	プリンス・メロン	4	1
ば れ い し ょ	13	6			
と ま と	31	14	計	182	79

回答率 43.4%

このようにした得た回答はすべて有効回答であった。

さて今回の調査結果の概要を述べよう。

(1) 卸売価格を中心とする調査

出荷者（生産者個人あるいは出荷団体または商人）から、中央卸売市場へ出荷し、販売されるまでの所要費用および生産者手取の1例として、なすの場合をみよう。表3はこれである（表3参照）。

これによると、荷造、包装費を別にすれば市場遠隔地ほど、概ね多くの出荷費用、とくに運賃が多くかかっていることが——当然のことながら——わかる。しかしその運賃もよく注意してみると、実際には、必ずしも、市場からの距離の大小に比例していない。これは恐らく、運賃契約の差や、1車当りの積載量の差によるものと考えられる（表2参照）。

以上は現実の荷造り単位量当りの出荷、販売費用の観察であるが、このことを一層、精密に知るためには、生産物1kg当りに換算して見る必要がある。そこで各種の青果物の1kg当りの市場までの諸費用、卸売価格、生産者取得を計算した。表4はこれである。この表においては、第2報までの形式の外に、卸売段階までにおける流通費のうち、卸売価格の変動にかかって変動する卸売人手数料（実数）と、荷造、包装費、運賃などの如く、価格の如何にかかわらず必要とするもの、いわば固定費的なものとを区別して考える必要を認め、それらを固定的流通費用として、一括して掲げた。この中には、検査料や組合の手数料や賦課金なども含まれているが、これらは組合によっては、卸売価格の何%というように変動し得るものと、1荷造単位

表3 なすの産地別出荷経費，生産者取得の1例

項 目	愛知，海部 甚目寺		三重，亀山市		京都，乙訓 長岡		兵庫，水上 春日		岐阜，郡上 美並		山梨，甲府市	
	4kgダン		10kgダン		8kgダン		5kgダン		10kgダン		10kgダン	
荷造単位量	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
1. 運賃	10	12.5	40	10.0	42	5.6	40	5.7	5.5	6.9	80	8.9
2. 荷造，包装費	25	31.3	60	15.0	55	7.3	56	8.0	58.7	7.3	50	5.5
3. 組合手数料	0	—	12	3.0	—	—	21	3.0	23.5	2.9	5	0.6
4. その他	—	—	10	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—
5. 以上計	35	43.8	122	30.5	97	12.9	117	16.7	137.2	17.1	135	15.0
6. 卸売価格	80	100.0	400	100.0	750	100.0	700	100.0	800	100.0	900	100.0
7. 卸売人手数料	6.4	8.0	34	8.5	64	8.5	60	8.5	68	8.5	81	8.5
8. 卸売までの流通 費用(5+7)	41.4	51.8	156	39.0	161	21.4	177	25.2	205.2	25.6	216	23.5
9. 生産者取得	38.6	48.2	244	61.0	589	78.6	523	74.8	594.8	74.4	684	76.5
出荷体制	共同		共同		共同		共同		共同		共同	

- 備考 1. Aは実数(円)，Bは比率(%)  
 2. なすの流通費用の平均は，上表の産地以外の産地を含めて表の項目番号1(運賃，以下これに準ずる)は=7.6%，2=12.5%，3=1.8%，4=0.01%，5=21.9%，7=8.4%，8=30.5%，9=69.4%である。  
 3. ダンはダンボール箱入りの略，以下これに準ずる。

当りにいくらかと固定費的に決められている場合もあるから，厳密には，それらを区別して計算すべきであるが，しかし，その比重は極めて小さいから，大勢には影響がないと判断せられるので，ここではこれらを固定費的に考えることにした(表4参照)。

表4 1kg当りの卸売価格，卸売段階までの流通費用，生産者取得の実数  
(産地別，種類別) (単位 円)

品 目	産 地	卸売価格	流通費用	う ち 固 定 的 流 通 費 用	生産者 取 得	荷 造 原 単 位 量	販売 体 制
〃 尾西市	60.00	15.00	10.20	45.00	10kgダン	〃	
〃 丹羽，岩倉	10.00	5.80	5.00	4.20	15kg袋	〃	
〃 一宮市	20.00	9.90	8.30	10.10	4kgダン	〃	
三重 四日市市	50.90	8.95	4.70	41.05	10kgダン	〃	
〃 亀山市	40.00	15.60	12.20	24.40	〃 〃	〃	
〃 鈴鹿市	75.00	16.30	9.93	58.70	〃 〃	〃	
〃 四日市市	50.00	13.53	8.74	36.46	〃 〃	〃	

品 目	産 地	卸売価格	流通費用	う ち 固 定 的 流 通 費 用	生産者 取 得	荷 造 原 単 位 量	販売 体 制
な す	岐 阜 郡上, 美並	80.00	20.52	13.72	59.48	10kgダン	共同
	〃 〃 大和	70.00	19.20	13.60	50.80	〃 〃	〃
	滋 賀 栗太, 栗東	62.50	17.88	12.50	44.62	8kgダン	〃
	京 都 亀岡市	81.25	23.45	17.76	57.80	〃 〃	〃
	〃 乙訓, 長岡	93.75	20.13	12.13	73.62	〃 〃	〃
	〃 京都市, 右京区, 大原野	78.75	22.33	15.63	56.43	〃 〃	〃
	兵 庫 氷上, 春日 (1)	96.25	23.00	14.88	73.25	〃 〃 (80個入)	〃
	〃 氷上, 春日 (2)	87.50	22.13	14.63	65.37	〃 〃 (100個入)	〃
	山 梨 甲府市, 国母	90.00	21.60	13.50	68.40	10kgダン	〃
〃 中巨摩, 昭和	70.00	20.00	14.40	50.00	〃 〃	〃	
きゅうり	愛 知 海部, 甚目寺	26.00	7.50	5.40	18.50	5kgダン	共同
	〃 一宮市, 萩原	43.75	11.63	8.13	32.12	8kgダン	〃
	〃 中島, 祖父江	87.50	15.00	8.00	72.50	〃 〃	〃
	〃 海部, 飛鳥	43.75	11.31	7.81	32.44	〃 〃	〃
	〃 〃 八開	25.00	7.75	5.75	17.25	〃 〃	〃
	〃 丹羽, 岩倉	31.25	19.88	17.38	11.37	〃 〃	〃
	長 野 塩尻市, 洗馬	60.00	24.00	19.20	36.00	5kgダン	〃
	〃 上伊那, 辰野	75.00	18.00	16.60	57.00	10kgダン	〃
	〃 〃 中川	42.50	25.70	22.09	16.80	〃 〃	〃
	〃 〃 飯島	27.60	15.30	19.20	12.30	〃 〃	〃
	〃 南安曇, 豊科	60.00	18.48	13.38	41.52	〃 〃	〃
〃 飯田市	20.00	17.36	15.66	2.64	〃 〃	〃	
たまねぎ	名古屋 緑, 大高	25.00	11.90	9.75	13.10	20kgネット	共同
	愛 知 大府市	25.00	11.90	9.75	13.10	〃 〃	〃
	岐 阜 本巢, 糸貫 (1)	28.60	10.39	7.96	18.21	20kgダン	〃
	〃 〃 〃 (2)	30.00	12.50	9.95	17.50	〃 〃	〃
	〃 〃 真正	27.35	5.95	3.65	21.40	〃 〃	〃
	兵 庫 三原, 南淡 (1)	25.00	7.13	5.00	17.87	20kgネット	〃
	〃 〃 〃 (2)	22.50	8.60	6.70	13.90	〃 〃	個人
	〃 〃 〃 (3)	22.50	10.50	8.60	12.00	〃 〃	〃
〃 〃 西淡	26.50	12.00	9.70	14.50	〃 〃	〃	
じゃがいも	名古屋 緑, 大高	53.33	9.07	4.80	44.26	15kgダン	共同
	〃 〃 鳴海	46.08	7.36	3.67	38.72	〃 〃	〃
	愛 知 大府市	66.67	20.00	14.67	46.67	〃 〃	〃
	〃 〃 吉田	34.11	8.40	5.67	25.71	〃 〃	個人
	〃 豊田市, 上郷	53.33	9.52	5.25	43.81	〃 〃	共同
	長 崎 島原市, 杉谷宇土	46.67	18.31	14.34	28.36	〃 〃	個人

品 目	産 地	卸売価格	流通費用	う ち 固 定 的 流 通 費 用	生産者 取 得	荷 造 原 単 位 量	販売 体 制
と ま と	愛 知 海部, 弥富	80.00	19.33	12.93	60.67	4kgダン	共同
	” 大府市	50.00	20.50	16.50	29.50	” ”	”
	” ” 吉田	25.00	10.50	13.00	14.50	” ”	”
	” 刈谷市 (1)	20.50	14.65	15.75	5.85	” ”	”
	” (2)						
	岐阜市 端詰	47.50	14.82	10.78	32.68	” ”	”
	三 重 鈴鹿市	75.00	19.30	13.92	54.70	” ”	”
	” 多気, 多気	47.50	21.50	17.70	26.00	” ”	”
	滋 賀 栗太, 栗東	20.00	13.50	11.75	6.50	” ”	”
	長 野 塩尻市	76.00	23.76	16.88	52.66	” ”	”
	” 猿島, 岩井	76.00	23.65	17.19	52.35	” ”	”
	” ” 境	76.00	23.34	16.88	52.66	” ”	”
	栃 木 宇都宮市, 竹市	137.50	31.25	20.25	106.25	” ”	”
京 都 船井, 瑞穂	75.00	28.88	22.50	46.12	”(24個人)	”	
す い か	愛 知 刈谷市, 東境 (1)	49.48	11.07	7.61	38.41	バ ラ	個人
	” ” ” (2)	62.13	11.36	7.01	50.77	”	”
	” 愛知, 東郷	100.00	47.00	14.58	53.00	”	”
	” 豊田市 (1)	95.50	19.60	12.90	75.90	”	”
	” ” (2)	70.00	21.82	16.25	48.15	15kg (4個袋入)	”
	” 豊橋市 (1)	100.00	47.00	40.00	53.00	15kg4個ダン	”
	” ” (2)	50.68	12.67	9.13	38.01	バ ラ	”
	” ” (3)	75.00	41.63	36.38	33.37	15kg4個紙袋	共同
	” 渥美, 渥美	61.48	11.92	7.62	49.59	バ ラ	個人
	静 岡 浜松市	46.00	11.29	8.07	34.71	15by3個袋入	共同
” 浜名, 湖西	48.12	26.21	22.84	21.91	バ ラ	個人	
も も	愛 知 春日井市, 下市場	75.00	15.50	10.25	59.50	8kg木箱	共同
	” 犬山市, 犬山	120.00	40.00	31.60	80.00	5kgダン	”
	長 野 塩尻市	100.00	39.38	32.38	60.62	” ”	”
	” 東筑摩, 波田	100.00	32.20	25.20	67.80	10kgダン	”
	山 梨 塩山市, 奥野田	170.00	41.94	30.04	128.06	5kgダン	”
	” 中巨摩, 白根	160.00	40.14	28.94	119.89	” ”	”
	” ” 敷島	160.00	41.00	29.80	119.00	” ”	”
” ” 竜王	98.12	30.48	23.62	67.64	” ”	”	
プリン ス メ ロ ン	愛 知 豊橋市	22.22	13.56	12.00	8.66	9個入ダン	共同

これによって次のことがわかる。すなわち、

1. 1 kg当りの出荷費用は、当然のことながら、市場遠隔地ほど、概ね多く要する。
2. 市場遠隔地がこの不利をカバーし得られるものは、その価格の良さによってであり、従って品質の良さで競争せざるを得ない。
3. そのために、市場価格が著しく低い場合には、遠隔地は、市場競争において、不利に陥ることになる。

こうしたことは、すでに第1報および第2報においても触れたが、今回の調査結果も、一層はっきり看取せられる。例えば、なす、きゅうり、とまとはその好例である。

なお、なすの場合は、卸売価格の約30%が流通費用で、従って残りの70%が生産者取得となっているが、これは後述のように、野菜類の平均値に近い。その理由は、なすの出荷地が、近郊、遠郊とりまぜて、多数に存在するからである。きゅうり、たまねぎの流通費が多くかかっているのは、遠隔地からのものが多いためである。

表5 卸売価格の構成比 (%)

	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	平均
調査件数	18	11	9	6	13	57
運賃	7.6	11.2	10.6	6.1	9.1	8.9
荷造包装費	12.5	14.3	16.3	9.3	21.3	14.7
検査料	0.0	0.6	0.5	0.4	0.0	0.3
組合手数料	1.8	1.2	1.2	0.4	2.2	1.4
その他	0.3	—	0.6	—	0.2	0.2
小計	22.2	27.3	29.2	16.2	32.8	25.5
卸売価格	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
卸売人手数料	8.4	8.2	8.2	8.1	8.3	8.2
流通費用計	30.6	35.5	37.4	24.3	41.1	33.7
生産者取得	69.4	64.5	62.6	75.7	58.9	66.3

  

	すいか	もも	プリンス・メロン	平均
調査件数	11	8	1	20
運賃	15.9	5.9	8.5	10.1
荷造包装費	8.6	11.9	43.5	21.6
検査料	0.0	0.2	0.0	0.0
組合手数料	0.4	2.4	2.0	1.6
その他	2.0	0.1	—	0.7
小計	26.9	20.5	54.0	33.8
卸売価格	100.0	100.0	100.0	100.0
卸売人手数料	8.1	7.0	7.0	7.4
流通費用計	35.0	27.5	61.0	41.2
生産者取得	65.0	72.5	39.0	58.8

備考 1. 本表にいう流通費用は、もちろん卸売段階までのものをさす。

次に各種の青果物の卸売価格の構成比をみると、表5に示す如くである。これによると、野菜の卸売段階までの流通費用は、卸売価格の33%程度、果物では41%程度となっている。このように果物が著しく高い比率を示しているのは、プリンス・メロンの包装、荷造費が著しく高いことによるものである。だからこれを除くと、果物の平均は23.7%となる。一般の果物の出荷費用の比率が、野菜に比べて低いのは、果物の方が野菜に比べると、概して、その内在価値

表6 青果物流通費用の諸指標 (1)

1. 実数 (円)

	なす	きゅうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと
1. 1kg当り卸売価格	37.5	43.7	23.6	43.9	46.3
2. 1kg当り小売価格	75.5	91.5	50.5	87.3	128.8
3. 荷造り単位量 (kg)	4	10	20	15	4
4. 荷造り単位量当卸売価格(1×3)	150.0	437.0	472.0	658.5	185.2
5. 卸売人手数料	12.8	37.2	40.1	56.0	15.7
6. 出荷費用	46.8	124.3	158.0	215.1	59.1
7. 仲買人手数料	15.0	43.7	47.2	65.9	18.5
8. 小売商仕入価格 (4+7)	165.0	480.7	519.2	724.4	203.7
9. 廃棄率 (%)	12.1	9.8	19.9	14.2	17.9
10. 小売商売上数量kg 3×(1-9)	3.52	9.02	16.02	12.87	3.28
11. 小売商売上高 (10×2)	265.8	825.3	809.0	1,123.6	422.5
12. 小売商取得 (11-8)	100.8	344.6	289.8	297.2	218.8
13. 流通費用合計(5+6+7+12)	175.4	549.7	535.1	634.2	312.1
14. 生産者取得 (4-(5+6))	90.4	275.6	273.9	389.4	110.4

  

	すいか	もも	プリンス・メロン
1. 1kg当り卸売価格	47.9	190.8	110.2
2. 1kg当り小売価格	93.0	335.6	214.3
3. 荷造り単位量 (kg)	1個 3.75kg	5	1個 350g
4. 荷造り単位量当卸売価格 (1×3)	179.6	954.0	38.6
5. 卸売人手数料	15.3	66.8	2.7
6. 出荷費用	19.2	132.4	18.9
7. 仲買人手数料	18.0	95.4	3.9
8. 小売商仕入価格 (4+7)	197.6	1,094.4	42.5
9. 廃棄率 (%)	13.6	18.7	13.6
10. 小売商売上数量kg 3×(1-9)	3.24kg	4.07	302g
11. 小売商売上高 (10×2)	301.3	1,369.5	64.7
12. 小売商取得 (11-8)	103.9	316.5	22.2
13. 流通費用合計 (5+6+7+12)	165.4	611.1	47.7
14. 生産者取得 (4-(5+6))	144.9	758.4	17.0

(intrinsic value) が大きいからである。換言すれば、野菜の方が、果物に比べると、かさ高商品 (bulky commodities) であるからである。この調査においても果物 1 kg 当りの平均価格は 116.3 円であるに対し、野菜のそれは 39.0 円で、果物は野菜の約 3 倍に当たっている (表 5 および後掲表 8 参照)。

(2) 小売価格を中心とする調査

小売価格を中心とする調査も、第 1 報と同様の方法をとる。すなわち卸売価格は調査期間の平均価格 (新聞紙上に発表のもの 10 日間の平均) をとり、小売価格は、上述の小売店を巡回して調査したもの (各店 3 回づつ調査) を平均したものをを用いた。そしてこの小売価格を基礎にして、1 荷造り単位量当りの小売段階における売上金総額を推算した。この場合、流通段階における廃棄率は第 1 報と同じ数値を用いたのは上述の如くである。

これらの数値を基礎に、卸売人手数料 (その調査品目における平均値)、出荷費用、仲買人手数料 (卸売価格の 10% とした)。小売商の取得、流通費用の合計、生産者取得を計算すると、次の如くである (表 6 参照)。

表 6 から、出荷費用、各流通段階のマージン、流通費用合計、生産者取得の小売価格に対する割合を計算すると、表 7 にみる如くである (表 7 参照)。

表 7 青果物流通費用の諸指標 (2)  
2. 小売価格に対する割合 (%)

	なす	さやうり	たまねぎ	ばれいしょ	とまと	平均
1. 荷造単位量 (kg)	4	10	20	15	4	
2. 卸売価格	56.4	53.0	58.3	58.6	43.8	55.9
3. 出荷費用	17.7	15.0	19.5	19.1	14.0	17.1
4. 卸売人マージン	4.8	4.5	5.0	5.0	3.7	4.6
5. 仲買人マージン	5.6	5.3	5.8	5.9	4.4	5.4
6. 小売商マージン	37.9	41.8	35.8	26.5	51.8	38.7
7. 流通費用計 (3+4+5+6)	66.0	66.6	66.1	56.5	73.9	65.8
8. 生産者取得 2-(3+4)	34.0	33.4	33.9	43.5	26.1	34.2
9. 小売価格	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

  

	すいか	もも	プリンス・メロン	平均
1. 荷造単位量 (kg)	1個 3.75	5	1個 350g	
2. 卸売価格	59.6	69.7	59.7	63.0
3. 出荷費用	6.4	9.7	29.2	15.1
4. 卸売人マージン	5.1	4.9	4.2	4.7
5. 仲買人マージン	6.0	7.0	6.0	6.3
6. 小売商マージン	34.5	23.1	34.3	30.6
7. 流通費用計 (3+4+5+9)	52.0	44.7	73.7	56.7
8. 生産者取得 2-(3+4)	48.0	55.3	26.3	43.3
9. 小売価格	100.0	100.0	100.0	100.0



## 考 察

以上昭和46年度の夏野菜，果物の流通費用の調査によって，観察し得たところを列挙すれば次の如くである。

1. 卸売価格を中心にみると，出荷費用は，卸売価格の概ね25～6%程度（例外的なものを除く平均的な値，以下これに準ずる）生産者取得は66%程度である。卸売人手数料は8%程度。

2. 出荷費用のうち，包装，荷造り費用と運賃は，包装の仕方，程度により，また市場への距離，輸送手段，輸送契約などによってかなり異なる。だから，この調査の結果から，直ちに，一般的な結論を下したり，あるいは品目的にみて特徴的なことをとらえて，一定の傾向を述べることは困難であるというべきである。

3. 小売価格を中心にみると，卸売価格は小売価格の概ね55～6%程度，出荷費用は15～17%程度，卸売人のマージン5%弱，仲買人のマージン約6%，小売商のマージン30～35%程度，生産者取得35%程度となっている。

4) 従って流通費用は野菜64～5%，果物50%程度となり，果物に比べ，かさ高商品である野菜の比率が，果物よりも高くなっている。そしてこの流通費用のうちとくに，出荷費用において，両者の差がみられる（野菜の出荷費用17.1%，果物15.1%）。

次にこの調査結果を45年のそれと比較し，問題を考えよう。

昭和45年の夏野菜，果物は46年よりも，多くの品目に高値であった。そのために，

A, 卸売価格に対する出荷費用の割合は45年の19.7%に対し，46年は27.7%となっている。反対に46年の方が，前年よりも高値であったものは45年の20.8%に対し，46年18.4%となっている。

元来，出荷費用は，卸売価格の高低如何にかかわらず必要な費用で，いわば固定的費用の性格をもっているから，卸売価格が高くなれば，出荷費用の比率が低下するのは当然である。

B, このことは生産者取得にも，同じ方向に作用する。すなわち卸売価格が総じて高値であった昭和45年の方が，46年よりも，出荷者の取得率は高かった。46年の方が高値であったればいしよ，ももはその反対の傾向を示した。詳しくは表8参照（表8）。

表8 卸売価格の変動に対する出荷費用，生産者取得の変動

品 目	1 kg 当り 卸 売 価 格 (円)			卸売価格に対する割合 (%)			
				出 荷 費 用		生 産 者 取 得	
	45年 (A)	46年 (B)	B/A	45	46	45	46
な す	46.0	37.5	81.5%	21.6	22.2	70.1	69.4
き ゅ う り	58.8	43.7	78.3	21.4	27.3	70.6	64.5
た ま ね ぎ	31.4	23.6	75.2	21.1	29.2	70.7	62.5
ば れ い し ょ	29.8	43.9	147.3	18.0	16.2	74.0	75.5
と ま と	65.0	46.3	71.2	22.5	32.8	69.2	58.9
す い か	99.8	47.9	48.0	12.1	26.9	79.9	65.0
も も	140.0	190.8	136.3	23.6	20.5	69.4	72.5
卸売価格が 上昇したものの平均	—	—	—	20.8	18.4	71.7	74.0
下落したものの平均	—	—	—	19.7	27.7	72.2	64.1

C, 小売価格は卸売価格を基準にして、順次中間費用の積み重ねによって決定せられる。このうち卸売人と、仲買人の手数料（マージン）とは卸売価格に対して何%というように計算せられるから、小売価格に対して比例的に変動する。流通費用としてみると、これらは比例の変動費用の性質をもっている。しかし小売商の取得は必ずしも、卸売人や仲買人のマージンの如く、いわば機械的に定率化し得ない。いいかえると、小売商のマージンの決定に際しては、卸売人や仲買人のそれに比べると、他の多くの要因が考えられるようである。すなわち、日日の天候や消費者の需要動向などが、より強く作用する。もちろんその店の経営的事情が考慮せられることはいうまでもない。その結果小売価格は、必ずしも卸売価格の変動と密着して変動するものではない。このために表9にみるように、昭和45年の卸売価格に比べ、46年のそれが安かったものについてみると、卸売価格の下落率（29.2%）よりも小売価格の下落率はやや低かったし（26.3%）、反対に45年価格よりも、46年の方が高かったものについてみる、卸売価格の上昇率41.8%に対し小売価格のそれは28.4%に止まったのは、小売商のマージンが、上述のような性格をもつことによるものである。これについては今後さらに検討してみることにする。（表9参照）。

表9 卸売格価の変動に対する小売価格、小売商取得率の変動  
（昭45=100とする46年の指数）

A. 卸売価格が前年に比べて下落したもの						
	なす	きゅうり	たまねぎ	とまと	すいか	平均
卸売価格	81.5	78.3	75.2	71.2	48.0	70.8
小売価格	79.6	59.8	75.9	94.7	58.4	73.8
小売商取得率	102.2	75.2	102.0	142.3	148.8	114.1

  

B. 同じく上昇したもの			
	ばれいしょ	もも	平均
卸売価格	147.3	136.3	141.8
小売価格	140.1	116.7	128.4
小売商取得率	68.3	122.8	95.2

D, 次に小売商の取得率をみると、前年に比べ小売価格が上昇しているのに、取得率は低下しているもの（例、ばれいしょ）、その反対に、小売価格は前年より低下しているのに、取得率が上昇しているもの（例、たまねぎ、すいか、とまと、なす）、小売価格も上昇し、小売商取得率も増大しているもの（例、もも）もある。さらにまた小売価格も取得率も、ともに低下している事例もある（例、きゅうり）。

このように対前年比における卸売価格と小売価格の変動、ひいては小売商の取得率との間には、必ずしも一定の関係がないようにみえる。実際小売商の価格決定の段階においては、前年との比較において取得率、従って小売価格を決定するというよりも、仕入価格を基準にして、大凡何%かの取得を計算し、それを基礎に、目玉商品を安く販売しようとするのである。このようにして、小売商は全体として多くのマージンを得ようとするから、上述のように、一

見複雑にみえる形をとっているのである。この問題については、後日の研究にゆずることとする。

E, 上述の事情から、卸売価格の上昇によって、利益を受けるのは、まず生産者、卸売人、仲買人がある。なぜなら生産者は、固定的流通費用を直接負担するから、これを越える卸売価格が実現すれば、それに比例して取得分が多くなるからであり、卸売人、仲買人は、定率的な取得分を入手するから、卸売価格の上昇に比例的に、取得分を増加し得られるからである。たとへ卸売人は産地への出荷奨励金などの還元金を支出するとしても、その取得分は卸売価格の上昇に比例することはたしかである。これに対し小売商は一律に、定率的なマージンを、小売価格に織り込まないで、あるいは目玉商品として低いマージンで売り、他のものでこれをカバーし、平均的にある率のマージンを獲得するのである。しかし卸売価格が上昇する方が、小売商にとっても好ましいようである。なぜなら卸売価格の高いもの(上昇したもの)、つまり仕入価格の高いものはマージンを多くかけ易いからである。

このように考えると、青果物の卸売価格の高いことを望むものは、ひとり生産者のみならず、すべての仲間商人もそうであるといえる。

反対に卸売価格の下落により——著しい下落により——最も強い影響を受けるのは生産者である。何故なら、卸売価格に対する固定的流通費用の負担比率が高まるからである。このため、極端に卸売価格が下落すれば、出荷費用さへ償い得なくなる場合も起きるのである。

## 結 論

これまで3回にわたる調査結果から、青果物の出荷費用、中間商人のマージンおよび生産者取得の小売価格に対する割合を、1表にまとめると、表10に示す如くである(表10参照)。

表10 青果物の流通費用、生産取得の小売価格に対する割合

(%)

項 目	野 菜				果 物				
	45年		46年	平均	45年		46年	平均	
	夏	秋	夏		夏	秋	夏		
卸 売 價 格	53.0	55.8	55.9	54.9	63.0	56.2	63.0	60.7	
出 荷 費 用	15.2	14.5	17.1	15.6	16.9	17.2	15.1	16.3	
マ ー ジ ン	卸 売 人	4.3	4.5	4.6	4.5	4.8	3.9	4.7	4.5
	仲 買 人	5.3	5.4	5.4	5.4	5.0	5.6	6.3	5.6
	小 売 人	41.7	38.8	38.7	39.7	32.0	38.2	30.6	33.6
流 通 費 用 計	66.5	63.2	65.8	65.2	58.7	64.9	56.7	60.1	
生 産 者 取 得	33.5	36.8	34.2	34.8	41.3	35.1	43.3	39.9	
小 売 價 格	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

備考 1. 第2報 表9. (本号所収第2報) および本稿表7の2より作成

これによってわれわれは、名古屋市における青果物の流通費用の一端を知ることができた。本稿においては、前年の調査結果と対比しなはら、流通費用、中間商人のマージンや生産者取

得の問題，とくに価格変動とそれらの動きについても考察の手がかりになる資料をつかみ得た  
と思う。この問題については後日の検討にゆずることとする。

稿を終るにのぞみ，この調査に対して協力して下さった各産地の出荷関係者，名古屋市中央  
卸売市場業務課の方々および本研究室のゼミ参加学生安藤三枝子，今泉みな子，今井恵里子，  
古沢伸枝の諸姉に対して，厚く感謝の意を表しておく。（1971.10.22）。

#### 参 考 文 献

1. 拙稿 1971. 青果物の流通費用に関する調査研究 I，名古屋女子大学紀要 17：125～134.
2. 拙稿 1972. 青果物の流通費用に関する調査研究 II，名古屋女子大学紀要 18：211～219.
3. 拙稿 1971. 前掲論文：126.
4. 拙稿 1971. 前掲論文：127. および拙稿第3報，本号：211.